

東方学院だより

第7号

平成17年4月1日発行

編集・発行

財団法人東方研究会事務局

東京都千代田区外神田2-17-2

TEL: 03-3251-4081 FAX: 03-3251-4082

http://www.toho.or.jp

○理事長挨拶

昨年平成十六年は国の内外で多難の年でした。年末には東南アジアのスマトラ島沖で大きな地震があり、インド洋沿岸の多くの人々が被害に遭われました。一方、日本でも、十月には新潟県中越地震があり、豪雪地帯のため、震災以後にも家屋倒壊の被害があると聞いております。亡くなられた方のご冥福を念じ上げますとともに、被害に遭われた方には、一日も早い復興を念じ上げます。こうした被害に遭われた方々に対して、慈悲の精神とことさらに申し上げるまでもなく、積極的に救済の手をさしのべるのが仏者に限らず、およそどの宗教の者であったとしても、その勤めだと考えます。

○スマトラ沖大地震・インド洋大津波の義援金

二〇〇四年十二月二十六日午前八時(現地時間)に、インドネシアのスマトラ島北端沖で発生したマグニチュード九の大地震によるインド洋大津波は、インド洋沿岸諸国に甚大な被害をもたらしましたが、本研究会では中村元東方学術賞を共催するなど、ゆかりの深いインド大使館を通じて、今回被害にあわれた方々のための義援金を東方学院の研究会員を中心に募金し、三月三日、インド大使館に出向き義援金を寄附いたしました。

○平成十六年度の行事

新春祝賀会

三月三十一日(火)。文京区湯島の東京ガーデンパレスにて講演および新春祝賀会が行われました。

講演の部では、仲宗根充修氏(佛教学大学院博士後期課程。平成十三年度アジア諸国派遣留学生)が「現代スリランカの社会と仏教」と題して留学の成果を講演され、次いで、インド大使館二等書記官のマハジャン氏より「日印関係」と題して、インドと日本との友好関係について、たいへん美しい日本語で講演がありました。

その後、引き続き新春祝賀会が、一〇〇名近い方々にご列席をいただき盛大に開かれました。

第一回清水寺仏教文化講座

五月二十三日(日)。島根県安来市の清水寺様と共催で仏教文化講座が開かれました。

第一回の講演者・演題は、前田専學先生(東方学院学院長)の「ラフカディオ・ハーンと仏教」と、清水寺と東方学院との縁を結んで頂きました釈悟震(金漢益)先生(東方学院講師)「仏教と人間 その真髄を求めて」でした。会場の清水寺光明閣には、当日二〇〇名近い参加者があり、両講師の講演の後には、熱心な質問が活発に行われ、たいへん盛況な講演会となりました。

第十四回鎌倉夏期宗教講座

八月二十六日(木)。鎌倉市の鶴岡八幡宮直会殿にて第十四回鎌倉夏期宗教講座が開かれました。

講師・演題は、保坂俊司先生(麗澤大学教授)「イスラムの寛容と仏教の寛容」。宮元啓一先生(國學院大学教授)「仏教・インド哲学における非人情」でした。両先生のご講演は、前田専學学院長の小泉八雲の神道観についてお話しされた挨拶とあわせて、『東方』第二十号に掲載いたしております。

第十四回中村元東方学術賞

十月十一日(月)、東京九段のインド大使館講堂にて、第十四回中村元東方学術賞の授賞式が行われました。

今回は奥田清明博士(四天王寺国際仏教大学教授)、松本照敬博士(大東文化大学教授)のお二方が受賞されました。奥田博士はジャイナ教を中心とするインド哲学研究において優れた業績をあげておられることにより、松本博士はヴェーダーンタ哲学を中心とするインド哲学研究において優れた業績をあげておられることにより受賞されました。授賞式には、駐日インド大使マニラル・トリパティ閣下のご臨席を賜り、中村洛子本財団理事長とトリパティ閣下より、それぞれ賞状と記念品が田村博士に授与されました。

その後、ビザホールに会場を移し、一〇〇名近い出席者を迎え、祝賀会が開かれました。

第五回東方学院・酬仏恩講合同講演会

十一月二十八日(日)、奈良西ノ京の薬師寺の慈恩殿にて合同講演会が開かれました。本講演は、アジア諸国派遣留学生の帰朝報告を兼ねて、薬師寺内に設けられた酬仏恩講様と合同で、薬師寺の後援を得て行っているものです。今回の講師・演題は、長崎法潤先生(大谷大学名誉教授)「自燈明・法燈明の教え」、林慶仁氏(東方研究会研究員・平成十四年度派遣)の「故国を離れたチベット仏教」でした。

平成十六年度公開研究会

本年度は以下の発表が行われました。

第一回、五月十三日(木) 西村玲研究員「蚕の声―日本近世における絹衣論の展開―」。第二回、六月十日(木) 立花弥生研究員「まじないから見た忍性の骨蔵器―思想背景に関する一考察(仮題)」。七月八日(木) 吉村均研究員「心の宗教」としての仏教―インド・チベットの伝統に基づく仏教入門―。第四回、十月十四日(木) 武田浩学研究員「龍樹の虚像と実像―伝承vs近代仏教学―」。第五回、十一月十一日(木) 石川巖研究員「『衰退期』―敦煌チベット文献に見える終末の

予言」。第六回、十一月二十六日(水)及川弘美研究員「ヒンドゥー教からみた宗教とは何か」。第七回、一月二十八日(水)森和也研究員「武人天皇の原像」。

※平成十七年度の公開研究会の予定については、事務局までお問い合わせ下さい。

【お知らせ】

○平成十七年度東方学院新規開設講座

平成十七年度から新たに開かれる講座を以下にご紹介いたします。

東京本校

・「パリー語入門」石上和敬 講師。

火曜日。一五時～一六時三〇分。四〇二号室。

武蔵野大学仏教文化研究所研究員、東洋大学講師、武蔵野大学講師、共立女子大学講師。パリー仏教の研究者として今後ますますの活躍が期待されます。

・「大乘涅槃経を読む」田上太秀 講師。

火曜日。一六時二〇分～一八時五〇分。四〇三号室。

駒澤大学教授、駒澤大学禅研究所所長。『涅槃経』を読む(講談社学術文庫)、『仏教と女性』(東京書籍)、『ブッダの人生哲学』(講談社選書メチエ)、『道元の考えたこと』(講談社学術文庫)など著書多数。

・「仏教論理学入門」林慶仁 講師。水曜日。

一二時五〇分～一四時二〇分。四〇二号室。

東方研究会研究員。本年度より「仏教論理学の魅力」を拡充し、仏教論理学の入門篇の講座を開講いたしました。「仏教論理学の魅力」も前年度同様開講されます。

関西地区教室

・「中観思想入門―空の思想へのいざない」

佐藤宏宗講師。火曜日。一六時三〇分～一八時。福聚禅院。

財団法人東方研究会研究員。「般若経典を読む」の講座に加えて、『中論』を講読しながら中観思想について学ぶ講座を開設いたします。

・「インドの美術から考える」畠中光享 講師。水曜日。

一九時三〇分～二一時。梅新一ーストホテル。

京都造形芸術大学教授。日本画家として活躍され、昨年、京都府文化功労賞を受賞されました。毎日新聞朝刊で連載されていた陳舜臣著「天球は翔ける」の挿絵でご存知の方もおられるかと思えます。

・「華嚴思想入門」小林圓照 講師。木曜日。

一七時～一八時三〇分。梅新一ーストホテル。

花園大学名誉教授、東大寺勸学院講師。禅・華嚴思想の著名な研究者です。近著は「叢書・禅と日本文化」第7巻『禅と心身論』(ぺりかん社)を編著されています。

名古屋地区教室

・「サンスクリット語入門」島田外志夫 講師。

土曜日。一四時～一五時三〇分。講師自宅。

昭和音楽大学教授。「インド音楽の理論」の講座に加えて、新たにサンスクリット語の講座を開設いたします。

関西地区教室では、講義名、講義分類が大幅に変更になっておりますので、詳細は「東方学院の手引き」をご覧ください。また前年度から継続して開講している講座についても、「東方学院の手引き」をご覧ください。

○第二回清水寺仏教文化講座

島根県安来市の清水寺様と共催で平成十七年五月二十九日(日)清水寺光明閣にて第二回清水寺仏教文化講座が開かれます。(『東方学院の手引き』に二十二日とありますが、二十九日に変更になりました。)

○ Buddhist Thought and Culture: With Special Reference to the Thought and Works of Professor Hajime Nakamura の出版

平成十六年三月十一日(木)から十三日(土)の三日間、インド、ニューデリーのインディア・ハビタット・センターなどに於いて、インド哲学研究会(I-CPR)、国際交流基金並びに東方研究会の共催で開催された中村元博士の思想と業績に関する日印仏教哲学者会議での各発表者の報告がインドにて出版されました。S・R・ブット博士の編集で、インドの Originals 社からの出版です。インド側、日本側双方の発表者による発表二十六本が掲載されています。インドでの英文による刊行ということから、関心を持たれている一般の日本人の方々のために、日本側の発表者につきましては来年度刊行予定の『東方』二十一号に新たに寄稿いただく予定です。

普通会員募集

普通会員になって頂くと、定期刊行物『東方』の他、催し物、会合のご案内をお送りいたします。年会費、五千元。

賛助会員募集

財団法人東方研究会では賛助会員を募っております。皆様のご協力をお願いいたします。賛助会費は一口、一万円です。

※ 詳しくは東方研究会事務局までお問い合わせ下さい。